

# 珍しい交響曲 ポーランド Minor Symphonies Poland

作曲者		生没年	交響曲の数	曲名	評価 ★★★★★:ぜひ聞いて欲しい ★★★★☆:聞く価値はある ★★☆☆:どちらとも言えない ☆☆☆☆:聞く価値なし	コメント	○の曲のスコアは保有しています。	CD番号	レーベル
Franciszek Mirecki	ミレツキ	1791-1862		交響曲ハ短調(1855)	☆☆☆☆	短調のムードが濃い第1, 3楽章は聞き映えがします。長調の第4楽章は楽天的。		DUX 1901	DUX
Josef Wieniawski	ヴィエニヤスキ	1837-1912		交響曲二長調(1890)	※※	4楽章で33分。作曲者はヴァイオリン協奏曲で有名なヘンリク・ヴィエニヤスキの弟。特に聴きどころ無し。		DUX 1901	DUX
Zygmunt Noskowski	ノスコフスキ	1846-1909	3	交響曲第1番(1875)	※※	4楽章で36分。ポーランド風味は無く、ドイツの交響曲と区別が付かない。		C5509	Capriccio
				交響曲第2番 エレジー風(1879)	☆☆☆☆	4楽章で36分。聞き映えがします。		C5509	Capriccio
				交響曲第3番(1903) 春から春へ	☆☆☆☆	4楽章で38分。ポーランドの四季を表現しており、1~4楽章には春、夏、秋、冬と春への戻りとしっかり記入されています。3, 4楽章は聞き映えがします。第4楽章は冬の嵐の後に春(第1楽章)が戻ってきます。		C5547	Capriccio
Ignacy Jan Paderewski	パデレフスキ	1860-1941	1	交響曲 副題:ポーランド(1908)	★★★★★	第1次世界大戦後の1919年(1月~11月)にはポーランドの首相も務めたこともある著名なピアニストの作品。3つの楽章で65分の大曲。 旋律や素材はあり当たりのものですが、大変豪華なオーケストラの音がします。祖国ポーランドを思う気持ちも伝わってきます。 終楽章の後半で突然民族的な旋律が登場して大変盛り上がり、最後は大迫力の祝典ムードで、ライブ録音での大喝采も納得です。		NIFCCD 065	NIFC
Zygmunt Stojowski	ストヨフスキ	1870-1946	1	交響曲 二短調(1898)	※※	4楽章で41分。第1楽章の前半は、これこそ短調の交響曲という響きがします。以降は長調になります。		C5464	Capriccio
				交響曲第1番(1902)	☆☆☆☆	4楽章で36分。同時代のドイツ、フランス、ロシアの交響曲とは違う音がします。短調の響きが気持ちよく大変聞き映えがします。			

Witold Maliszewski	マリシェフスキ	1873-1939	4	交響曲第2番(1905)	☆☆☆☆	4楽章で36分。長調のためか、第一番よりは軽い内容。どの楽章も聞き映えします。	DUX 1716/17/18 管弦楽作品集	DUX
				交響曲第3番(1907)	※※	4楽章で37分。第1楽章はふたたび短調の響き。第3楽章は変奏曲形式。やや独自性が薄くなつた。		
				交響曲第4番(1923) 再生し復興した祖国に	※※	4楽章で38分。第一次世界大戦後の第二次ポーランド共和国の成立を記念した曲。第1楽章の第一主題は”新世界”の第1楽章の第一主題と酷似。第1楽章は祝典な雰囲気もありますが、第2楽章以降は軽い感じ。		
Karlowicz M.	カルウォービッチ	1876-1909	1	交響曲(1903)復活(再生)	☆☆☆☆	4楽章で47分。第1楽章の冒頭は大変聞きごたえがあります。他の部分も聞き映えがします。第4楽章後半に登場するコラールはやや安っぽく感じます。	8.572487	NAXSOS
Grzegorz Fitelberg	フィテルベルク	1879-1953	2	交響曲 第1番 木短調(1904)	※※	4楽章で28分。第1、4楽章は聞き映えがしますが、短いのが残念です。	Dux2022 この交響曲のみ集録の短いCD	Dux
Szymanowski	シマノフスキ	1882-1937	4	交響曲第2番(1910)	☆☆☆☆	第1楽章は室内楽的。第2楽章は聞きごたえがあります。	LPです。 L28C1118	LONDON
				交響曲第3番 夜の歌(1916)	☆☆☆☆	テナー、合唱が入ります。気持ちの良い響きがします。		
Raul Koczalski	コチャルスキ	1885-1948	2	幻想交響曲(1914頃)	※※	4楽章で34分。4つの楽章とも、なよなよとした感じで終始します。	AP0505	Acte Prealable
Paul Kletzki	クレッキ	1900-1973	3	交響曲第3番(1939)	☆☆☆☆	4楽章で44分。当時の前衛っぽい作風で、面白く聞けます。オーケストラも良く鳴っています。	MGB CD 6272	MIGROS
Grazyna Wacewicz	バツエヴィチ	1909-1969	6	交響曲第2番 (1951)	☆☆☆☆	女性作曲家。4つの楽章で20分。聴き映えのする部分がたくさんあります。	555660	cpo
				交響曲第3番(1952)	☆☆☆☆	4楽章で31分。変化に富んだ音がします。	CHSA5316	Chandos
				交響曲第4番(1953)	☆☆☆☆	4楽章で26分。同上。		

Andrzej Panufnik 1961年イギリスに帰化	パヌフニク	1914–1991	10	交響曲第8番(1981)	※※	2つの部分に分かれます。第2部の後半は盛り上がりますが特に聞く箇所無し。		LPです。 28PC-72	Philips
Mieczyslaw Weinberg	ヴァインベルグ	1919–1996	26	交響曲第3番 (1950–1959)	☆☆☆☆	4つの楽章で34分。各楽章とも、とても魅力的です。特に第1楽章の冒頭はすばらしいです。	4862402	Dg	
				交響曲第7番(1964)	☆☆☆☆	5つの楽章で31分。弦楽とハープシコードの編成。この時期、ハープシコードの使用が流行ったのでしょうか。面白く聞くことができます。		Dg	
				交響曲第12番(1975–76) ショスタコービッチの思い出に	※※	4つの楽章で56分。1975年のショスタコービッチの死の後に書き始められました。第3楽章は聞きごたえがあります。ショスタコービッチの引用などは聞こえできません。	CHAN20165	CHANDOS	
				交響曲第19番(1985)	※※	3楽章で34分。ワルシャワ生まれですが、主にロシアで活動。ショスタコービッチの交響曲の中のあまり魅力的でない部分がつながったような感じ。	8.572752	NAXOS	
Henryk Gorecki	グレツキ	1933–2010	3	交響曲第2番(1972) 副題:コペルニクス	☆☆☆☆	2楽章で36分。ポーランドの天文学者コペルニクス(地動説で有名)の生誕500年を記念した曲。2つの部分からなります。和音の連打や金管のフラッターの嵐などからなる第1部は聞けませんが、男声、女声のソロにリードされる第2部の雰囲気は交響曲第3番とそっくりで引き込まれます。	8.555375	NAXOS	
				交響曲第3番(1976)	☆☆☆☆	3楽章で54分。一時、大ブームになった曲。弦楽合奏+ソプラノ独唱。第1楽章の弦楽器による何重にも重なっていくカノンは聞き応えがあります。		7559-79282-2	Elektra Nonesuch
Krzysztof Meryer	メイエル	1943–	9	交響曲第6番(1982) ポーランド交響曲	☆☆☆☆	4つの楽章で46分。各楽章とも重苦しい気分ですが、聞きごたえはあります。		DUX1898	DUX



